

平成28年度 学校訪問総括

1、8つの観点の評価について（第1回目から第3回目までの推移）

別紙資料1

8つの観点の評価について

第1回学校訪問においてすべてA評価以上の学校数 26/80校

第3回学校訪問においてすべてA評価以上の学校数 67/72校（12/18現在）

- ・ほとんどの学校で、すべての項目がA評価以上に向上しているが、課題校（B評価のある学校）が5校ある

2、学校マネジメントについて

① 学校評価の4点セットの進行管理、短期の検証・改善について

○ A 小

取組指標が実際に取り組むことにより重点目標に近づくイメージができています

別紙資料2

○ B 小

取組指標に基づいてセルフチェックし、全職員へ還元している

別紙資料3-1、3-2、3-3

○ C 小

4点セットを各プランと連動させるとともに、重点目標に基づいて全職員の自己評価をし、分掌への作業課題を明示している

別紙資料4-1、4-2

② 教務主任のミッションについて

○ D 中、 B 小

第2回地域授業改善協議会から

別紙資料5-1、5-2

3、授業改善について

① 学校評価の4点セットと授業改善の5点セットの連動について

○ E 小

4点セットの重点的取組を5点セットにおいて具現化し検証改善の方向性を明確にしている

別紙資料6-1、6-2

② 定期的な授業改善会議

○ F 小

月に1回授業改善会議を開催し、ホワイトボード等を活用した意見交流の時間を位置づけた授業を展開する

別紙資料7-1、7-2、7-3、7-4

③ 授業評価

○ G 中

生徒による授業評価が、授業改善に反映されている

別紙資料 8-1、8-2、8-3、8-4

④ 中学校ブロック毎の近隣合同教科部会

○西部中-北部中、長洲中-駅川中-宇佐中、安心院中-院内中

ブロックごとに5教科の共通の定期テスト、全教科の合同教科部会を開催

4、総括

取組が進んでいる学校は・・・

○校長の描くビジョンがシンプルかつ明快であり全職員に周知されている

○教務主任等のミドルリーダーが分掌の核となって、細かい進行管理ができています

○取組指標の達成状況は、ミドルリーダーが毎週、集約・助言し還元するなど、積極的に検証・改善がされている

○分掌チームの作業課題を明確化することにより、取組指標の検証・改善が詳細かつスムーズに行われ、短期 PDCA サイクルが効果的に実現されている

5、3学期の取組

- ・ 県教委がすべての学校においてA以上評価にすることを掲げていることを受けて、課題校（8つの観点でB評価のある学校）に対して特に取組が遅れている観点については市教委と調整の上追加訪問をする

6、来年度に向けての方向性

学校訪問について

訪問回数 2回

時期 1学期、2学期

訪問時間 1校70分（学校より説明10分、授業参観20分、協議40分）

ただし12学級以上の学校については80分

（学校より説明10分、授業参観30分、協議40分）

備考 ・2回目の訪問後更に改善が必要な学校については3学期に追加訪問予定

・授業に支障のない範囲で教務主任とミドルリーダーは同席のこと

※ 具体的な実施方法等については新年度当初、市教委と協議の上決定する

「8つの観点」の評価状況

別紙資料1

小学校

	学校数	観点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
中津市	22	S	12	10	13	10	3	8	8	/	(%)
		A	10	12	9	12	19	14	14	22	A以上 100.0
		B	0	0	0	0	0	0	0	0	B 0.0
豊後高田市	11	S	6	3	7	4	1	5	7	/	
		A	5	8	4	7	10	6	4	11	A以上 100.0
		B	0	0	0	0	0	0	0	0	B 0.0
宇佐市	15/24	S	5	3	5	6	4	3	6	/	
		A	10	12	10	9	11	12	9	15	A以上 100.0
		B	0	0	0	0	0	0	0	0	B 0.0

全県	216/266	S	80	45	107	47	22	69	60	/
		A	134	164	109	159	185	144	156	215
		B	2	7	0	10	9	3	0	1

単位：%

全県	216/266	S	37.0	20.8	49.5	21.8	10.2	31.9	27.8	/	
		A	62.0	75.9	50.5	73.6	85.6	66.7	72.2	99.5	A以上 98.1
		B	0.9	3.2	0.0	4.6	4.2	1.4	0.0	0.5	B 1.9

中学校

	学校数	観点	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
中津市	10	S	1	1	0	2	0	3	0	/	(%)
		A	7	7	8	7	8	5	8	10	A以上 83.8
		B	2	2	2	1	2	2	2	0	B 16.3
豊後高田市	6	S	1	0	0	0	1	1	3	/	
		A	3	4	4	4	3	3	2	6	A以上 72.9
		B	2	2	2	2	2	2	1	0	B 27.1
宇佐市	4/ 7	S	0	0	0	0	0	0	0	/	
		A	4	4	4	4	3	4	4	4	A以上 96.9
		B	0	0	0	0	1	0	0	0	B 3.1

全県	104/126	S	25	9	29	12	7	25	25	/
		A	74	83	70	77	82	71	76	103
		B	5	12	5	15	15	8	3	1

単位：%

全県	104/126	S	24.0	8.7	27.9	11.5	6.7	24.0	24.0	/	
		A	71.2	79.8	67.3	74.0	78.8	68.3	73.1	99.0	A以上 92.3
		B	4.8	11.5	4.8	14.4	14.4	7.7	2.9	1.0	B 7.7

平成 28年度 中津市立 A 小学校 学校経営方針

別紙資料2

【本校の教育目標】

確かな学力を身につけ、心豊かで、たくましい子どもの育成

めざす児童像

○基礎学力を身につけ、友だちと学び合う子 ○思いやりがあり優しい子 ○安全意識を持ち、運動を楽しむ子

重点目標

○基礎・活用力を定着させる ○よく考え、友だちを思いやる心を育てる ○安全に気をつけ、運動を楽しむ子を育てる

日本国憲法
教育基本法等関係法規
大分県教育行政基本方針
中津教育事務所指導指針
中津市教育行政基本方針

児童の願いや実態
保護者・地域の願い
教職員の願い

めざす学校像

○地域・保護者から信頼される学校
○知・徳・体をバランスよく育てる学校
○落ち着いた学習する学校

めざす教職員像

○組織的・機動的に動く教職員
○目標に向かってチームで取り組む教職員
○子どもとともに学び、活動する教職員

重点目標	今年度の達成指標		重点的取組		到達イメージ		取組指標	
	(重点目標が達成された指標)		(達成に向けて本年度取り組むこと)		担当	(期待される児童の姿)	(到達イメージに向けて教職員で努力する内容・回数等)	
①基礎・活用力を定着させる	教務・研修部	<input type="checkbox"/> 12月に実施する中津市学力定着状況調査で、すべての学年で基礎及び活用の目標値を上回る (昨年度) ・基礎～全学年でクリア ・活用～4年以外、すべてクリア	〔授業改善：授業展開部〕 根拠（データ、事実）をもとに話し合う時間を確保する	A	事前に課題提示をした後、各自が課題に対して自ら図書室で調べたり、聞き取りをしたりして考えを持ち、授業では根拠を添えてグループや全体で意見を交流することができる	○単元を通して「事前課題提示」の授業を設定する ○ユニバーサルデザイン授業、特に構造的な板書や教師の発言過多に気をつける		
			〔学び直し：確かな学力部〕 A小タイム（学び直しタイム）により、活用力の育成をめざす	B	習得した基礎を生かして、活用問題にじっくり取り組むことができる	○全教職員が分担して毎日のA小タイムに取り組み、基礎力及び活用力育成をめざす。		
			〔連携：生活規律部〕 学習規律を徹底するとともに、PTA研修部と連携し目標協働達成を図る。	C	学習に必要な道具を忘れず、高学年60分、中学年45分、低学年30分の家庭学習が習慣化する	○前学年にさかのぼった内容も含めた「複合問題プリント」を宿題にする ○PTA研修部と連携し、家庭学習カードの取組を行う		
②友だちと心をよく育てる	生活人権指導部	<input type="checkbox"/> 学校が楽しいと思う児童を95%以上にする (昨年度93.2%) <input type="checkbox"/> 「やさしい言葉遣いをしている」～アンケート90%以上 (昨年度88.4%)	ソーシャルスキルトレーニングを通して、望ましい行動様式を身につけさせる	D	友だちと上手に関係づくりができるとともに、望ましい立ち居振る舞いができる	○ソーシャルスキル年間計画に基づき、毎月発達段階に応じて全校でスキルトレーニングを実施する		
			すべての学級で「人権学習年間計画」を活用した道徳・人権の授業を行う	E	荒い言動ではなく、相手の立場を思いやったやさしい言動ができる	○月に1回、「人権学習年間計画」を題材に各学級で人権授業を行う		
③むけ、安全を運ぶ	体育部	<input type="checkbox"/> 交通事故をゼロにする <input type="checkbox"/> 「体育の授業が楽しい」～アンケート85%以上	交通事故ゼロの目標を共有し、学校、家庭、地域で目標協働達成を図る	F	交通安全に気を付け、交通事故ゼロを更新している	○学期に1回、保護者・児童アンケートでヘルメットの定着状況を確認する ○地域の交通安全協会と連携し、安全教室を開く		
			サーキットトレーニングを体育授業の冒頭に取り入れる	G	各学年とも活動量の多い体育の授業が展開され、児童が楽しんでからだを動かしている	○すべての学年で、発達段階に応じた種目を考え、毎時間の体育の初めにサーキットトレーニングを行う		

平成28年度 学校経営の重点目標及び重点的取組等(4月)

学校名 豊後高田 市立 B小 学校
 学校長名

1. 教育目標

進んで学び、心豊かに、たくましく生きる B小っ 子の育成

2. 重点目標

○確かな学力の定着 ○豊かな心の育成	* <研究テーマ> 子どもが進んで思考・判断し、表現できる授業づくり ～「生徒指導の3機能」を意識して～
-----------------------	--

3. 重点目標・達成指標・重点的取組・取組指標

重点目標	達成指標	重点的取組	到達イメージ	取組指標
確かな学力の定着	○豊後高田市学力定着状況調査で、各学年(国・算)で目標値を15ポイント以上上回る。	学習規律を徹底する ・6つの学習の約束の徹底を図る。	・始業のチャイムが鳴り終わったときには着席がすんでいる。	「B小 6つの学習の約束」を児童・教職員で意思統一し徹底を図る。4月は6つの約束の内「チャイム着席」をセルフチェックで90%以上達成させる。(児童)
		授業改善を行う ・ゴールを意識し「課題」や「めあて」をつくる。また、「課題」や「めあて」が子どもの追究意欲に足りうるものになるよう準備する。	・子どもが、自分でキーワードを用いてまとめを書いている。	・1日1回以上、まとめ(ゴール)につながる、複数の考えが予想される課題を設定した授業をし、セルフチェックして80%以上の達成をめざす。(教職員)
豊かな心の育成	○一生懸命に掃除していると答える児童を90%以上にする *「みがき掃除」 ・みつける ・がまんする ・きくぱりする	1学期中に、掃除のあり方と掃除の方法【言葉掲示と写真による見える化】を定着させる。	・清掃の方法を理解して掃除にがんばっている。	教職員が掃除の方法・取り組み方について意思統一し、掃除の仕方が児童に定着しているかを週に1回セルフチェックし、80%以上の達成をめざす。(教職員)
		「させられる掃除」から「進んでする掃除」へ移行させる。	・必要のないおしゃべりをしないで掃除に取り組んでいる。	自分の頑張りを実感させるために、週に一度のセルフチェックで、90%以上達成させる。(児童)

平成28年度1学期 4点セット進行管理表(B 小学校)

重点目標	達成指標	担当	4月				5月				6月				7月			
							5月6日	5月11日	5月18日	5月25日	6月1日	6月8日	6月15日	6月22日	6月29日	7月6日	7月13日	7月20日
確かな学力の定着	○豊後高田市学力定着状況調査で、各学年(国・算)で目標値を15ポイント以上上回る。	教務研究部	A (教務主任)	取組提案 授業改善	校内研究	互見授業・日常	菊池先生授業	互見授業・日常実践	互見授業・日常	第1回校内研究会	互見授業・日常	1学期単元テスト平均の集計(全学年)	2学期の取組(分掌会議8月8日) 学校評価アンケート実施(保護者・児童)					
			B (研究主任)	4月分セルフチェック集約(分掌会議)	5月分セルフチェック集約(分掌会議)	6月分セルフチェック集約(分掌会議)	7月分セルフチェック集約(分掌会議)											
豊かな心の育成	○一生懸命に掃除していると答える児童を100%以上にする *「みかき掃除」・みつめる・がまんする・きくばりする	生活保体部	E (生活指導主任)	清掃の仕方提案・共通理解	清掃の仕方全校一斉指導							学校評価アンケート実施(保護者・児童)						
			F (生活指導部)	「黙って掃除」の徹底	「見つけて掃除」の徹底	「一言もしゃべらず黙って掃除」の徹底	「一言もしゃべらず黙って掃除」の徹底											
体力向上	トレーニングタイムの工夫・改善	H (体育主任)	G (保健体育部)	4月分セルフチェック集約(分掌会議)	5月分セルフチェック集約(分掌会議)	6月分セルフチェック集約(分掌会議)	7月分セルフチェック集約(分掌会議)											
			H (体育主任)	トレーニングタイム提案・実施	トレーニングタイム見直し	シャトルラン実施	体力テスト実施(残り7種目)	体力テスト提出・分析										
運営委員会(検証・改善のサイクル)			第1~第3回運営委員会	第4回運営委員会	第5回運営委員会	第6回運営委員会	第7回運営委員会	第8回運営委員会	第9回運営委員会									
目標管理等			目標管理シート作成 重点・分掌・自己目標	面談Ⅰ 自己目標の設定				中間申告(評価)提出に向けて										

平成28年度 学校評価の4点セットと各プランの連動イメージ

中津市立 C 小学校

学校教育教育目標

自ら学ぶ喜びを知り、豊かな心とたくましく生きる力をもつ の育成

重点目標

(1) 主体的に学ぶ力の育成 (2) 認め合う力の育成

重点的取組

重点目標	達成指標 (評価のものさし)	重点的取組(何をするか)	到達イメージ(子どもの姿)	取組指標(何をどれくらい)	担当
(1) 主体的に学ぶ力の育成	○進んで家庭学習に取り組む児童100% (「チェックシート」8P以上)	①「家庭学習の手引き」の作成(5月) ②「自学ノート」の指導(1学期) ・ノートのモデル提示 ・きめ細かな個別の指導と評価 ③「家庭学習チェックシート」による自己評価(1学期末)	○家庭学習に、自分から進んで取り組む姿。 ○自主学習を工夫する姿。 ○まちがったところを自主学習で復習する姿。	●「家庭学習のてびき」を5月中に作成し、全家庭に配布する。(原案作成は校長) ●5月中に「自学ノート」の使い方を、モデルを示し、まず模倣から指導する。(各担任) ●宿題プラス自学ノートを毎日全員に提出させる。(各担任)	◎
	○単元末評価テストの「個別の目標値」クリアした児童100% (評価テストの正答率による目標値クリア)	④単元末テストの「個別の目標値」を設定し、評価する。 ⑤わかる授業のため、授業のUD化を図る。 ・見えないものを「見える化」する。 【視覚化(ビジュアル)】 ・「1時間の流れ」を提示、または学習過程をパターン化する。	○設定した「目標の得点」に向けて意欲を持って努力する姿。 ○この時間は、何を解決するか(課題)が言える姿。 ○自分の考えをもち、発表したり、ノートなどに書いて取り出す姿。	●全ての単元の単元末テストにおいて「個別の目標値」を設定する。(各教科担任一校長) ●導入段階に、視覚化された教材を必ず1つ以上提示する。(セルフチェック) ●毎時間、「1時間の流れ」を提示する。(セルフチェック)	A
	○自分が大切にされていると感じている児童100% (学校環境適応感尺度「ASSESS」による評価で「要支援領域」の子0人)	⑥各教科や道徳など(含SST)のあらゆる授業において、「生徒指導の三機能」を活かした授業づくりをする ・自分の考えを持たせる。【自己決定】 ・「ペア」や「グループ」で互いの考えを伝え合う場をつくる。【自己存在感】 ・授業や活動の最後に自分や友だちの良さに着目させ、「ふりかえり」をさせる。 【共感的人間関係】	○わからない、できない友だちに自分から関わり、教えてあげようとする姿。 ○わからないとき、できないときに、遠慮せず自分から教えてもらおうとする姿。 ○その時間に、わかったことや思ったことを自分の力でまとめたり、発表したりする姿。 ○一人ひとりがあるままの姿を見せることができ、それをお互いに受け入れ、互いに動かし合うことができる姿。	●毎時間、課題に対して、自分の考えを持たせる時間を保障する。(セルフチェック) ●「学習形態の工夫」や「思考ツール」を取り入れた授業を毎日1時間以上実施する。(セルフチェック) ●全ての授業や活動の最後に自分や友だちの良さに着目させ、「ふりかえり」をさせる。(セルフチェック)	B C
(2) 認め合う力の育成	○自分から進んであいさつをする児童100% (「子どもの自己評価アンケート」「学校評価」アンケートによる肯定的評価の割合)	⑦児童朝会で、「あいさつ」の大切さについて、具体的な場面を提示しながら、考えさせる。 ⑧児童会活動の中で、目標に掲げて、「あいさつ運動(仮案)」に取り組ませる。	○児童朝会の「先生方の話」を聞いて、よりよいあいさつを実践しようとする姿。 ○自分からすすんで、気持ちのよいあいさつをする姿。	●児童朝会で「あいさつ」についての講話を全職員が毎日一人ずつ行う。 ●児童会提案の取組に対して、各学級で毎日声かけをする。	◎ E F

目標協働達成プラン

授業改善5点セット

学力向上プラン

不登校(未然)対策プラン

目標協働達成プラン

自ら学ぶ喜びを知り、豊かな心とたくましく生きる力を持つ の育成



「一校一実践」: 運動好きな「ファイトマン」

重点目標 : 年間を通した縄跳びとサーキットトレーニングを中核とした体力向上
重点的取組 : 縄跳びチャレンジやパワーアップサーキットへの意欲と技能の向上
達成指標 : 体力テストすべての項目でバランスよく体力向上する児童の増加
取組指標 : ①ジャンピングボードの常設(環境整備/夏休み)活用(100%)
②なわとび検定表の活用(100%) ③体育の授業における準備運動において、全校統一のサーキットトレーニングとなわとび活用(授業での実施率100%)

体力向上プラン

平成28年度 学校経営の重点目標に基づく自己評価 (2学期末) 分掌チームへの作業課題

中津市立C小学校

学校教育目標：自ら学ぶ喜びを知り、豊かな心とたくましく生きる力をもつ「上津っ子」の育成

※継続は、そのまま。
※変更、追加は付箋に書いて添付して下さい。

達成指標			
評定	平均評点	達成率	児童数
A	3.6以上	90%~100%	24人~26人
B	2.8~3.6未満	70%~89%	19人~23人
C	2.4~2.8未満	60%~69%	16人~18人
D	2.4未満	60%未満	15人未満

重点目標	総合評定	達成指標 (評価のものさし)	達成指標 評定	重点的取組(何をするか)	取組指標(何をどれくらい)	取組 評定	成果・課題及び検証結果	3学期の取組指標	担当
(1)主体的に学ぶ力の育成	B	○進んで家庭学習に取り組む児童100% (「チェックシート」8P以上)	B	①「自学ノート」の指導の強化 ②「家庭学習チェックシート」による自己評価(毎月末)	●「自学ノート」のモデルを模倣させる場の設定(各担任) ○「自学ノート」展覧会(月に1回、全校一斉)と他担任によるノート指導(毎月交代)	B (3.3) A (3.8)	【2学期スタートの取組】 □1学期より平均評定が上がった。(2.0→3.5)	○「自学ノート」のモデルを模倣させる場の設定(各担任) ○「自学ノート」の展覧会の実施(毎週、全校一斉)	学ぶ力 部会 ◎
		○8p以上の児童は、26人中6人。→D 平均値は、6.0 だった。 ○保護者アンケートは、肯定的回答が85%(1学期は77%)→B ※全児童を8p以上にするには、新たな取組が必要と思われる。 ※3学期は「達成指標」を(「チェックシート」平均8p以上)にはどうか？		③単元末テストによる評価・分析・補充指導。 ④わかる授業のための「授業のUD化」	●全ての教科の単元末テストで「標準得点」を目標値として設定・評価・補充指導(各担任) ●「学び合い」の場面で、視覚化された教材を必ず1つ以上提示(セルフチェック)	B (3.2) B (3.3)	□1学期より平均評定が上がった。(1.8→3.2) 【2学期スタートの取組】	○全ての教科の単元末テストで「標準得点」を目標値として設定・評価・補充指導(各担任) ○「学び合い」の場面で、視覚化された教材を必ず1つ以上提示(セルフチェック)	
		○単元末評価テストの「標準得点」クリアした児童100% (要支援児童は「個別の目標得点」設定)	B	⑤「生徒指導の三機能」を活かした授業づくり	●全ての授業で、「1時間の流れ」の提示(セルフチェック)	B (3.3)	□1学期より平均評定が上がった。(3.3→3.7)	○全ての授業で、「1時間の流れ」の提示(セルフチェック)	
(2)認め合う力の育成	B	○自分が大切にされていると感じている児童100% (学校環境適応感尺度「ASSESS」による評価で友人サポート「要支援領域」の子0人)	B	【自己決定】 ・「自分学び」の場の設定 ・「自己存在感」 ・「友だち学び」「みんな学び」の場の設定 【共感的人間関係】 ・「ふりかえり」の場の設定	●毎時間、課題・めあてに対して、「自分学び」の時間を保障(セルフチェック) ○毎日1時間以上、「学習形態の工夫」や「思考ツール」を取り入れた「友だち学び」「みんな学び」の場を設定(セルフチェック)	A (3.7) B (3.0)	□1学期より平均評定が上がった。(2.0→3.0) □1学期より平均評定が上がった。(2.3→2.7)	○毎時間、課題・めあてに対して「自分学び」の時間を保障(セルフチェック) ○毎日1時間以上、「学習形態の工夫」や「思考ツール」を取り入れた「友だち学び」「みんな学び」の場を設定(セルフチェック)	認め合う 力部会 ◎
		○自分から進んであいさつをする児童100% (「子どもの自己評価アンケート」「学校評価」アンケートによる肯定的評価の割合)	B	⑥「あいさつ」の大切さについての講話やSSTの実施 ⑦児童会活動の「あいさつ運動(仮案)」実施(2学期)	●児童朝会で、全職員が毎回一人ずつ「あいさつ」講話やSSTを実施 ●「あいさつ」に関する取組に対して、各学級で毎日声かけを実施(各担任)	C (2.7) C (2.8) A (3.6)	□1学期より平均評定が上がった。(1.2→2.8) □1学期より平均評定が上がった。(3.0→3.6)	○全ての授業・活動の最後に自分や友だちの良さに着目させた「ふりかえり」の場を設定(セルフチェック) ○児童朝会で、全職員が毎回一人ずつ「あいさつ」講話やSSTを実施 ○「あいさつ」に関する取組に対して、各学級で毎日声かけを実施(各担任)	

※多くの取組において評定が上がっています。先生方のご努力のお陰です。3学期は短期間なので、これまでの取組を充実させると共に、取組の大きな修正点は各分掌一つに絞り込み、「1点突破」を「一枚岩」でいきましょう。

①研究主任との連携

- ・研究主任と常に情報交換を行い、今後の研究の方向やアンケート集計の呼びかけなどを共通理解していく。
- ・互見授業や公開授業の指導案づくりの際、研究主任と共に指導案に5分間思考の場を適切に設定しているか等を点検し、指導する。
- ・研究主任の提案による互見授業の事後研にできるだけ参加し、各授業者の授業改善の状況を把握すると共に研究主任は話し合われた内容を模造紙にまとめ、職員室など各職員が見える所に掲示することで事後研に参加できなかった職員にも研究の方向性を理解させる。

②結果提示と各分掌への呼びかけ

- ・授業改善アンケートと生徒の自己診断シートの集計結果を全教職員に提示し、成果と課題を各分掌ごとにチェックしてもらい、進捗状況を月ごとに記入してもらう。
- ・分掌会の時間の確保が難しいため、分掌の責任者に対して各部員に空き時間などを利用して確認作業を行ってもらう。
- ・集計結果をもとに改善のための分掌提案を運営委員会に提出してもらう。

～教務主任として～

率先垂範・凡事徹底・切磋琢磨

1. 校長から求められていることを把握する
2. 課題を細分化し、教職員に分かるように伝える(早めの提案、可視化・データ化)
3. 日頃から教職員とコミュニケーションをとり、分掌リーダーとは、特に連携を密にする
4. 運営委員会の企画・準備をし、分掌会議に入る
等

平成28年度 授業改善への道の「見える化」(1学期)

教務・研究担当

Table for 1st semester showing goals, progress, and activities. Includes columns for '重点目標', '達成指標', '運営委員会における検証・改善', and '授業改善5点セット'. It details specific actions and results for each month from April to August.

平成28年度 授業改善への道の「見える化」(2学期)

教務・研究担当

Table for 2nd semester showing goals, progress, and activities. Similar to the 1st semester table, it details monthly progress and specific educational activities from August to December.

重点目標

根拠を明らかにして表現できる子どもの育成

【達成指標】

課題に対して自分の考えの根拠を明らかにして、ノートに書き分かりやすく発表できる。全児童が1日に1回は授業中に発言をする。

<重点的取組>

○ホワイトボードを活用した意見交流の時間を位置づけた授業を展開する。

*取組指標

○月に1回、全職員による参加体験型の授業改善会議を実施する。(KJ法を取り入れた研修)

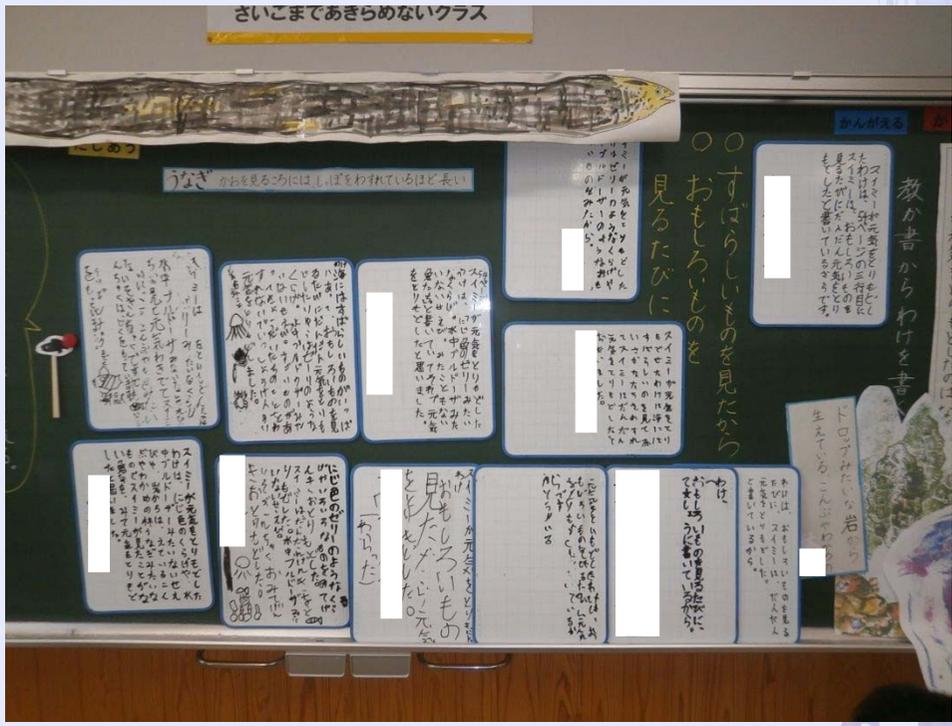
平成28年度中津教育事務所管内
第3回授業改善協議会

別紙資料7-2

宇佐市立 F 小学校

校内研究

ホワイトボードの活用



別紙資料7-3

平成28年度中津教育事務所管内
第3回授業改善協議会

宇佐市立 F 小学校

授業改善会議



平成28年度中津教育事務所管内
第3回授業改善協議会

宇佐市立 F 小学校

授業改善会議



**セルフチェック
と相互チェック
の機能**

4期終了時の生徒アンケート1

(1) 先生から示された課題や、学級やグループの中で自分たちでたてた課題に対して取り組んでいると感じる授業

%	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	体育
1年	63.5	42.4	72.9	60.0	57.7	32.9	42.4
2年	65.4	33.3	80.8	74.4	52.6	20.5	37.2
3年	54.9	35.2	80.3	63.4	49.3	43.7	62.0

(2) 生徒同士で話し合いをよく持っていると感じる授業

%	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	体育
1年	64.7	23.5	72.9	41.2	42.4	17.7	20.0
2年	50.0	16.7	74.4	61.5	57.7	11.5	24.4
3年	29.6	21.2	84.5	45.1	56.3	21.1	26.8

(3) 自分の考えを発表する機会が与えられていると感じる授業

%	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	体育
1年	60.0	40.0	77.7	60.0	63.5	10.6	17.7
2年	55.1	29.5	65.5	64.1	43.6	11.5	25.6
3年	23.9	33.8	83.1	23.9	64.8	5.6	11.3

(4) 課題解決に向けて、情報を収集し、話し合いながら整理し、発表する等の学習活動が行われたと感じる授業

%	国語	社会	数学	理科	英語	音楽	体育
1年	83.5	21.2	64.7	56.5	34.1	10.6	14.1
2年	61.5	19.2	59.0	56.4	35.9	11.5	12.8
3年	39.4	29.6	66.2	39.4	35.2	4.2	8.5

(9) 話し合い学習(交流学習)は、自分の考えを広げたり、深めることにつながる。

%	十分該当	概ね該当	あまり該当せず	該当しない
1年	37.65 82.36	44.71	15.29	2.35
2年	35.90 80.77	44.87	16.67	2.56
3年	39.44 83.10	43.66	14.08	2.82

(10) 自己評価や振り返りをする中で、その学習の内容の理解が深められたと感じる

%	十分該当	概ね該当	あまり該当せず	該当しない
1年	28.24 90.59	62.35	5.88	3.53
2年	23.08 74.36	51.28	17.95	7.69
3年	21.13 71.83	50.70	22.54	5.63

生徒の学力状況

取組指標(30%以下を8%以内)と授業改善(生徒アンケート)

1年生	国語	社会	数学	理科	英語
1学期 中間	10.6	5.9	1.2	3.6	3.6
1学期 期末	5.9	10.6	5.9	4.7	9.6
2学期 中間	4.7	21.2	2.4	16.5	16.5
授業改善(生徒)	◎	●	◎		
2年生	国語	社会	数学	理科	英語
1学期 中間	2.5	1.2	12.3	7.4	21.0
1学期 期末	22.2	9.9	6.2	14.8	16.0
2学期 中間	11.0	12.2	8.5	6.1	25.4
授業改善(生徒)	○	●	◎	◎	●
3年生	国語	社会	数学	理科	英語
1学期 中間	27.4	21.9	11.0	15.1	17.8
1学期 期末	5.5	2.7	9.6	12.3	20.5
2学期 中間	13.5	16.2	9.5	9.5	27.0
授業改善(生徒)		●	◎	○	